

男子バレーボール部

監督 蔦宗 浩二

男子バレーボール部の2010年度の活動は、全日本大学男子バレーボール大会（インターカレッジ）優勝という形で終了することができた。3位、4位が数年間続き昨年度準優勝となり、ようやく28年ぶりに優勝することができました。昨年度より複数セッターによる「ローリングシステム」を世界で初めて導入し、今年度は2年目に突入している。このシステムは1セットの中にセッターが複数出場し、前衛のスパイカー3人を有効に活用していくものである。今回のインカレでは3回戦までは「ローリングシステム」、準々決勝からは「ツーセッターシステム」を導入した。「ローリングシステム」に関しては昨年度紹介しているので今回は今年度初めて開発し導入した「ブロックのスライドシステム」を報告し、その他今年度の実施した内容を取り上げたいと思います。

2010年度に男子バレーボール部が導入・実施したもの

- ① セッターの「ローリングシステム」
- ② ブロックの「スライドシステム」
- ③ 人間評価表

- ④ 栄養・食事の講習会 得意料理の発表会
- ⑤ 読書習慣の確立 読書感想発表会
- ⑥ 地域の「楽しいバレーボール教室」の充実
- ⑦ 順大バレーボール大会の充実

・ブロックの「スライドシステム」

「ブロックのスライドシステム」を開発したきっかけは、夏合宿のプレミアリーグの新日鉄ブレイザーズとの1日目ゲーム終了後であった。ブレイザーズのスタッフとの会食会の時「伏見君（210cm）のブロックの前では、うちのセッターはスパイクを打たせないからな」という会話があった。その時に「上級のセッターの場合、伏見の立っているセンターにはトスが上がらないのだから、トスの上がるサイドに伏見がトスの上がる瞬間にスライドしていけば、ほぼ100%近くブロックが成立する。」つまり、伏見が2～3人分の存在になると考えた。

次の日のブレイザーズのゲームで試したところ、素晴らしいブロックポイントが連続して発生し、ブレイザーズチームは大混乱をきたしていた。その効果は予想をはるか



写真一1 全日本インカレ優勝

に上回るものであった。このシステムを「秘密兵器」として、インカレ導入に成功したのである。

インカレ準々決勝の東海大学戦になり、とうとう「スライドブロック」を出す場面がやってきた。3セット中盤から東海大のセッターは伏見のブロックの前でクイックを上げなくなり、サイドのトスに頼り始めた。3セット目は30点を超えるジュースの末、順天堂大がセットを取った。そして4セット目に入り、伏見の「スライドブロック」が炸裂し、東海大のライトエースをブロックし勝利を獲得した。

・「人間評価表」

男子バレーボール部では定期的に「人間評価表」を作成し、選手選考の重要な資料として活用している。

「人間評価表」には、「人間性の評価」>「各技術の評価」>「体力測定の評価」等がある。

それらのすべてを生かして、公平に選手選考をしている。その中で最も評価しているのは「人間性の評価表」である。次の表がその表である。全ての項目を得点化し総合評価を行う。

表1 人間性の評価 (2010年夏合宿評価)

氏名	挨拶	返事	礼儀	リーダーシップ	身なり 頭髪	声 ムード	チームとしての役割	粗暴	言葉遣い	創意工夫練習	コンディショニング作り	評価
A	○	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	○	30
B	○	◎	◎	○	◎	◎	◎	△	○	◎	△	26
C	△	○	△	△	○	○	○	○	○	○	○	19
D	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	△	○	◎	○	28
E	○	○	◎	○	◎	○	◎	◎	○		△	23
F	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○		○	28
G	○	○	○	◎	◎	○	◎	△	△	○	△	22
H	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	△	30
I	○	○	○	△	△	○	○	○	○	○	○	20
J	○	○	△	○	◎	◎	○	○	××	◎	○	21
K	◎	◎	○	○	◎	△	○	○	○		○	22
L	○	○	○	△	○	○	○	○	△	○	○	20
M	◎	◎	◎	○	◎	○	○	◎	◎	○	△	27
N	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	32
O	○	○	○	△	◎	○	○	△	○	○	△	20
P	○	◎	◎	△	○	○	◎	◎	○		○	23
Q	◎	◎	◎	△	◎	○	○	◎	○	○	△	25
R	○	◎	○	△	◎	○	○	◎	◎	○	×	23
S	○	○	◎	○	△	△	◎	◎	○	○	○	23
T	◎	◎	△	○	◎	○	○	△	○	△	△	21
U	◎	◎	◎	△	◎	○	○	◎	○	○	○	26
V	○	◎	◎	△	△	○	○	◎	○	○	○	23
W	◎	◎	○	○	◎	◎	◎	◎	○	○	○	28
X	◎	◎	◎	○	○	○	◎	◎	◎		◎	27

Y	◎	◎	◎	○	○	○	◎	◎	○		◎	26
Z	○	◎	◎	△	◎	△	◎	◎	◎	○	◎	27
AA	◎	◎	◎	△	◎	○	○	◎	◎	×	△	24
BB	△	◎	◎	○	◎	◎	○	◎	○	×	○	24
CC	○	○	○	△	△	△	○	◎	○	×	△	17
DD	△	○	◎	△	◎	○	○	◎	◎	×	×	20
EE	○	◎	○	△	△	○	○	◎	○	×	○	20
FF	△	△	○	△	△	△	○	◎	○	○	×	16

この評価表の使い方は、ただその時点の評価を一元的に評価するのではなく、以前の評価より努力してどれくらい「改善」しているのかが重要となる。つまり、上級生にもかわらず、いつまでも自分の悪い所を「改善」しない選手は試合に使わないことになる。しかしながら、順天堂大学男子バレーボール部の選手は、自分の「改善しなければならない要素」を的確に「改善」し上昇してくる。そして、試合に出場するチャンスを自らの手でつかむ。この評価表がチーム内の好循環を生む最大の原動力となっている。(この評価はスタッフ・データ班が責任を持って付けている。)

以上の「評価表」、「スライドブロック」、「ローリングシステム」がなければ今年度のインカレ優勝は厳しいものになっていたと考える。有望な選手・精神力・優れたシステムが相互に影響して「インカレ優勝」を獲得したのであろう。来年度はさらなる努力を積み重ねていきたい。

・栄養・食事の講習会 得意料理の発表会

今年度は食事や栄養に注意を払い、年間を通してケガ・病気がない健全な肉体を育成するため、2か月に一度外部より専門的な栄養士を呼んで、定期的に「栄養・食事の講習会」を実施した。

チーム内においては春から夏にかけて「得意料理の発表会」を一日に4人ずつ行って、自炊生活の充実を確立していった。

・読書習慣の確立 読書感想発表会

思考能力や人間の内面(心)を充実・発達させるために、「読書週間の確立」に力を入れた。夏休み中盤から練習後

に読書感想の発表を毎日4人ずつ行った。約二か月近く行ったため、だいぶ読書習慣が確立し、精神力の安定・思考能力の向上等に役立ったと思われる。この年代のスポーツ競技は選手本人の人間性が「瞬間的な自立度」に大きな影響を及ぼすと考えられる。

・地域の「楽しいバレーボール教室」の充実

毎週火曜日19:00~20:30 幼稚園児・小学生約80人、中学生・大人約50人が参加し、バレーボール教室が行われている。バレーボール教室では、選手全員が指導者になりバレーボールを丁寧に教えている。全日本インカレにも多くの子供たちが応援に来ていただき、選手も勝負所のプレーに影響があったと思われる。お互いに良い影響や刺激を受けていると考えられる。

選手の「自立度」を向上させるためには、できるだけ早い時期から「指導者として教える」ことによって、「考え



写真-2 楽しいバレーボール教室

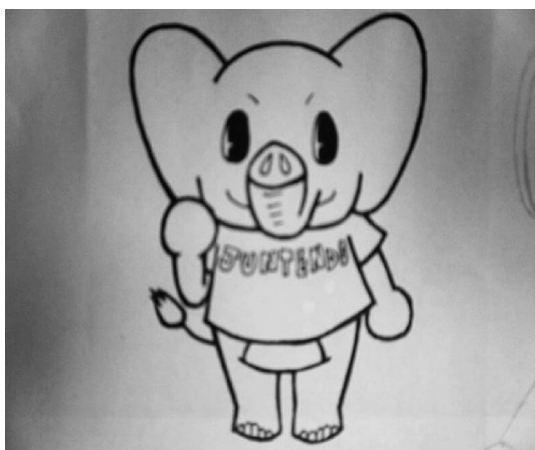


写真-3 マスコット「順ぞう君」

る」→「子供の言葉に置き換える」→「模範を行う」→「行動させる」……などの思考が発達し人間的に向上していく。今回の全日本インカレの「しぶとさ」はバレーボール教室で培われたものが大変多いと考えている。



写真-4 順大バレーボール大会レセプション

・順大バレーボール大会の充実

2011年1月11・12日に行われた「第4回 順大バレーボール大会」は参加者 約600人を超え盛大に行われた。男女バレーボール部が主催し運営を行った。今回は6人制男女と9人制混合を行い、活気のあるすばらしいバレーボール大会であった。選手のボランティア精神が大変成長した。